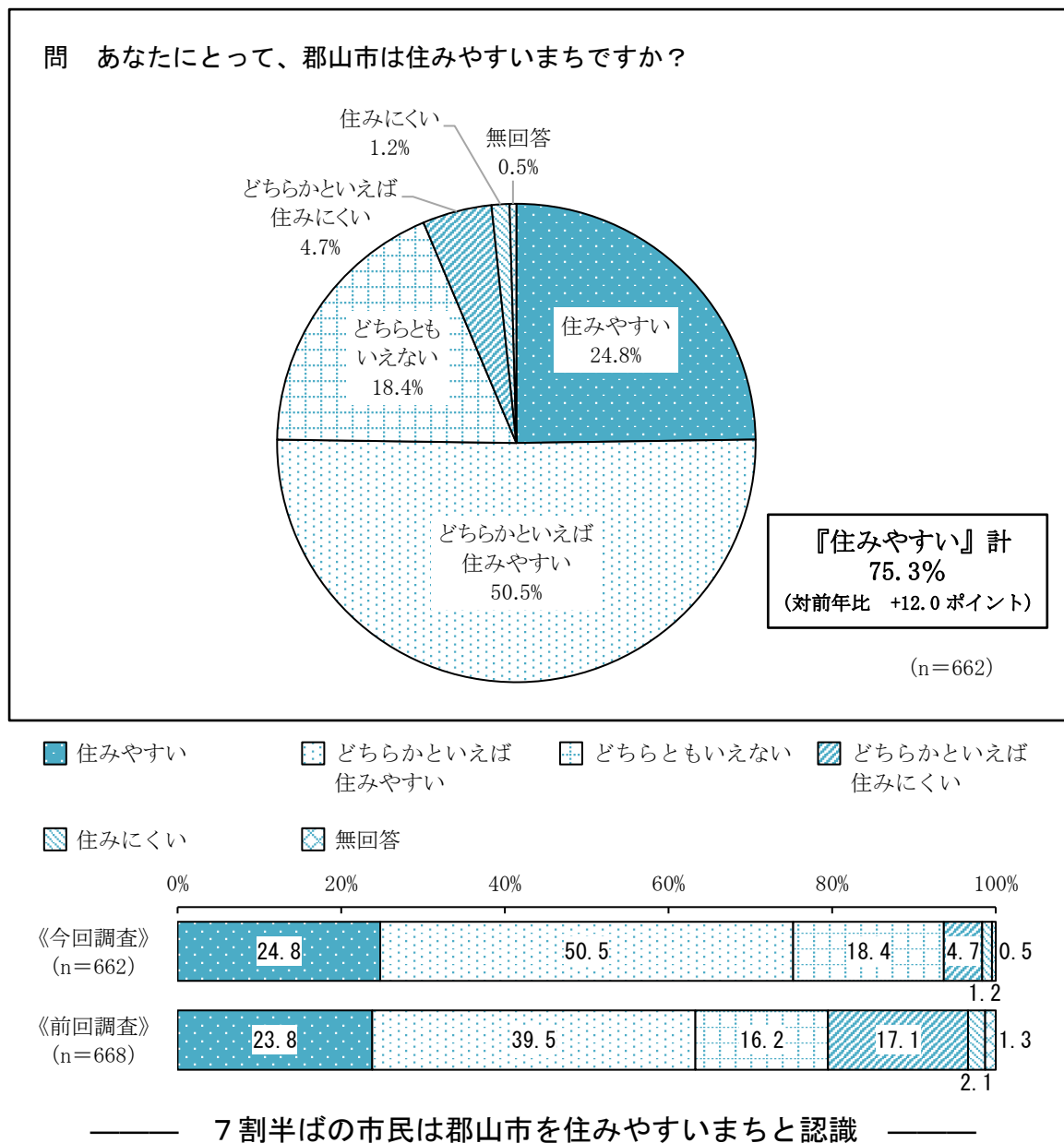


2. 郡山市の住みやすさについて

(1) 住みやすさへの評価



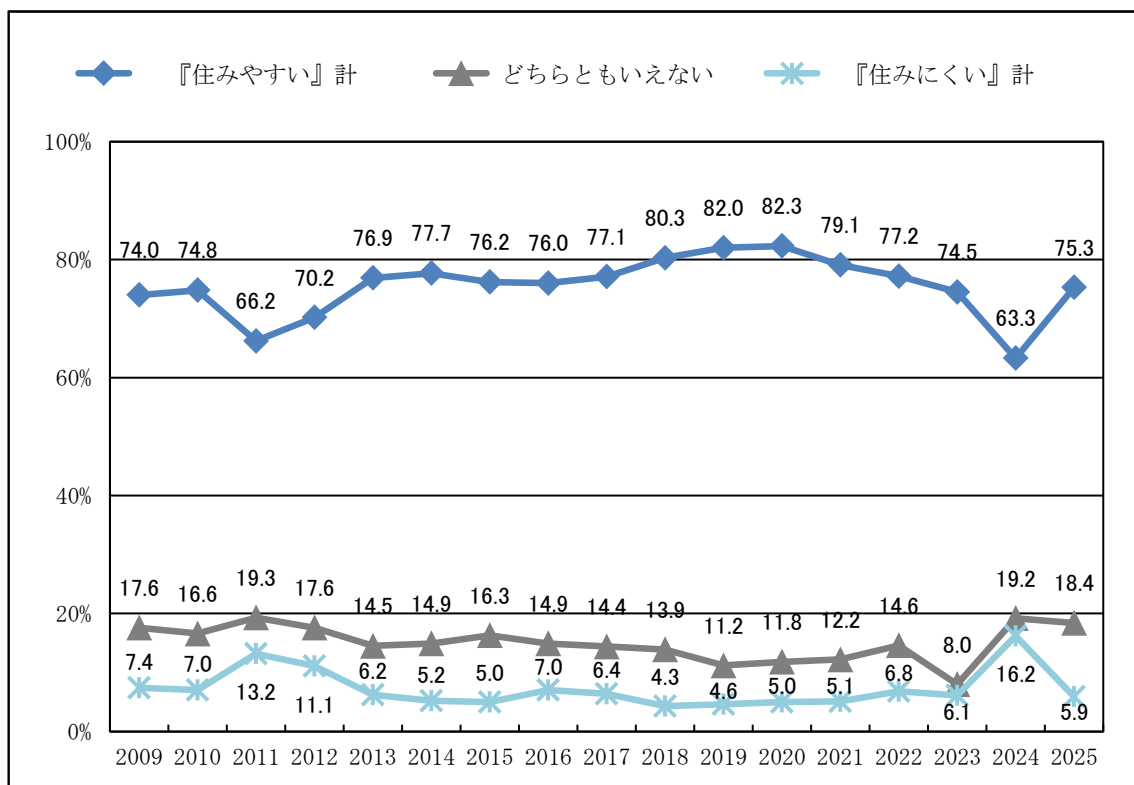
【全体結果】

郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(24.8%)と「どちらかといえば住みやすい」(50.5%)の両者を合計すると『住みやすい』(75.3%)となっています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.7%)と「住みにくい」(1.2%)を合計すると『住みにくい』(5.9%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』の合計ポイントは12.0ポイント増加しています。また、過去の調査結果との比較では、2020年度をピークに減少が続いていましたが、今回一昨年度を上回りました(図2-1参照)。

図 2－1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-2 参照）

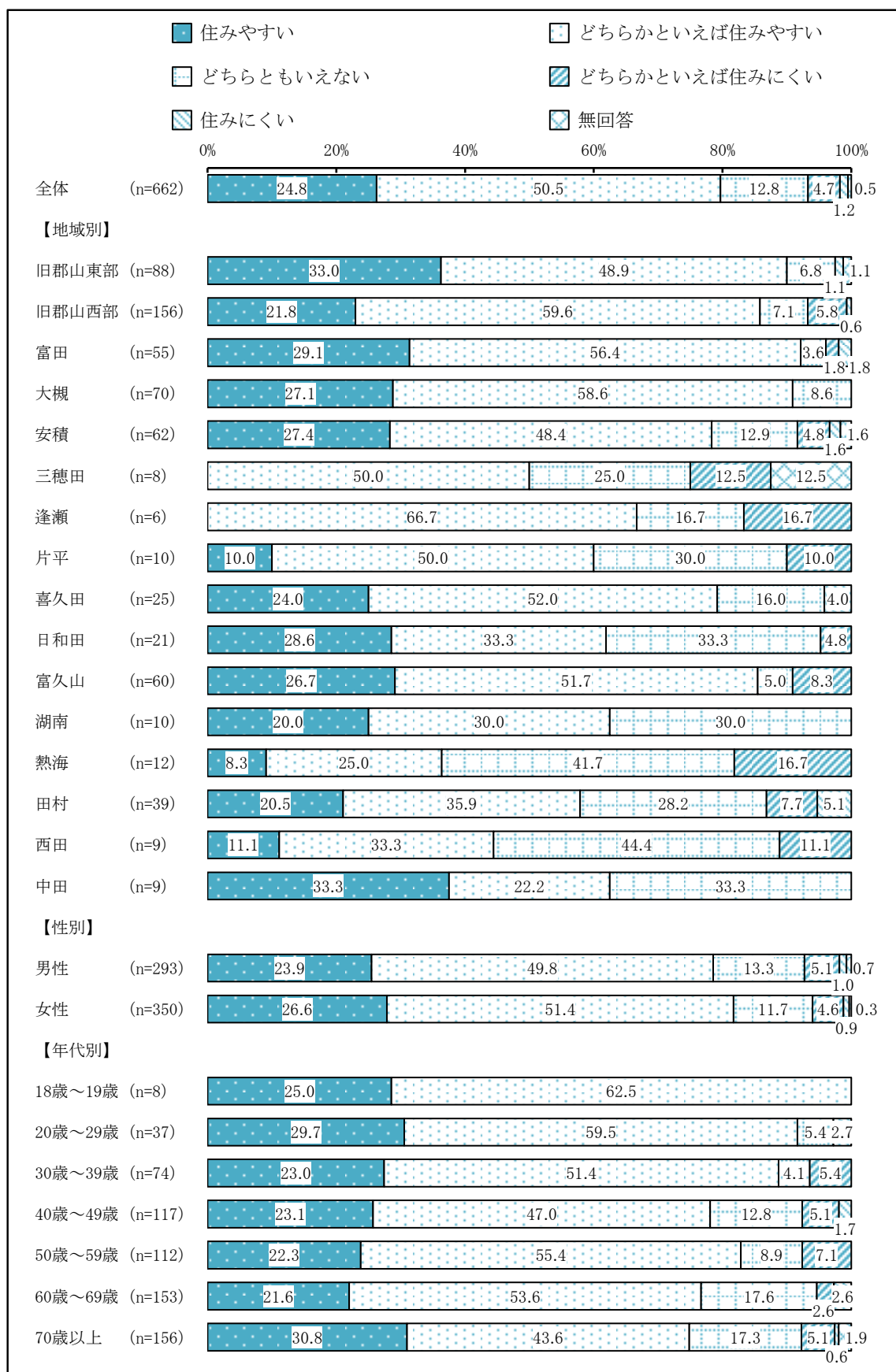
①性別

『住みやすい』の割合は、女性（78.0%）の方が男性（73.7%）よりも高くなっています。

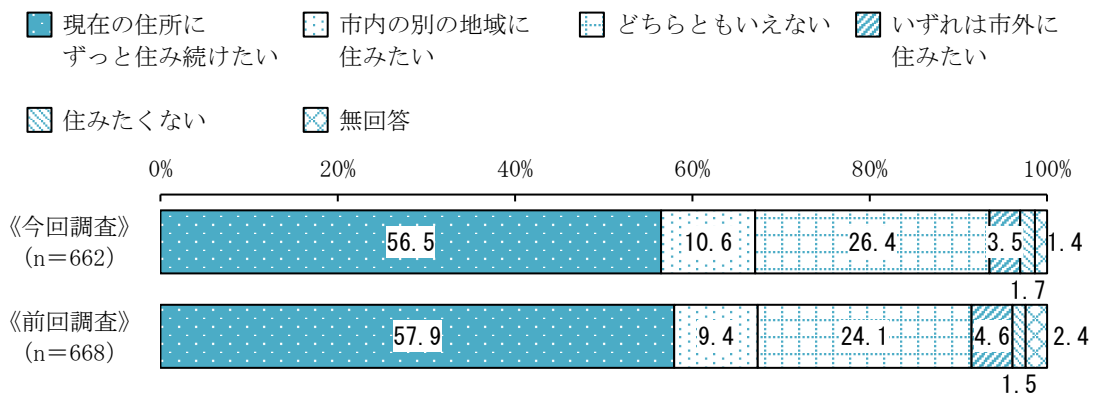
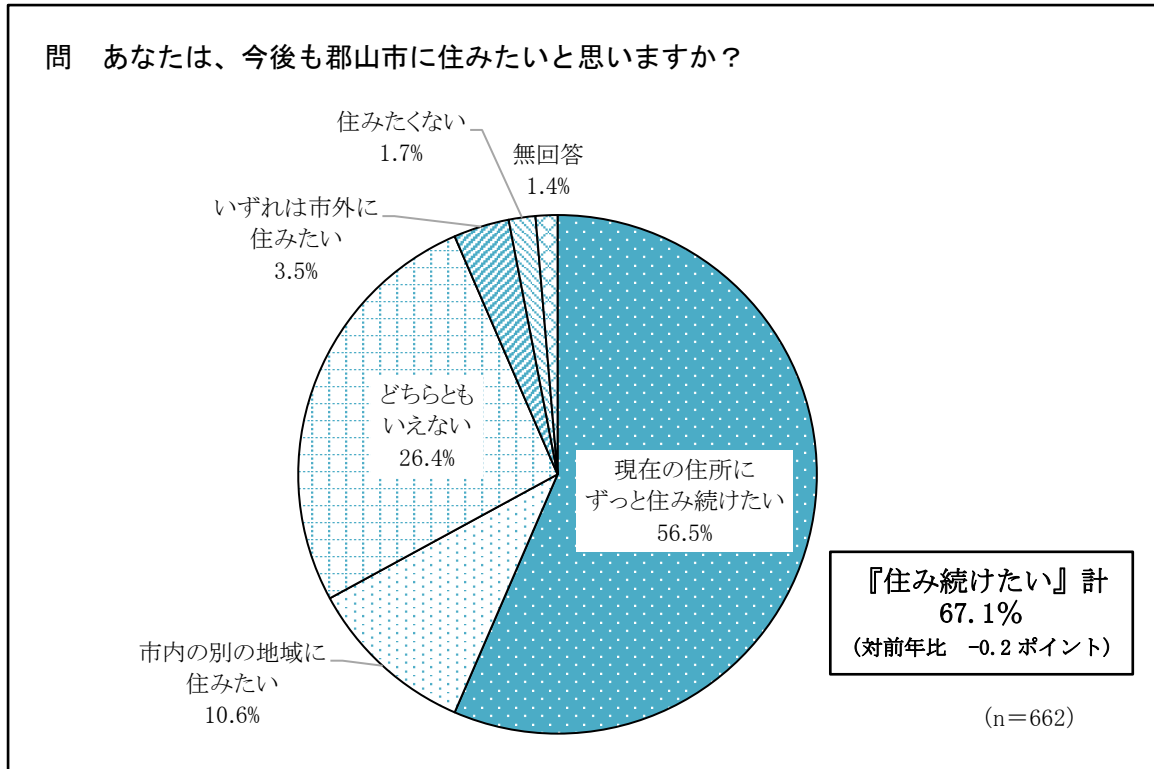
②年代別

『住みやすい』の割合は、20代（89.2%）で最も高くなっています。年齢が高くなるにつれ、割合が低下していく傾向が見られます。

図2-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年齢別）



(2) 今後の居留意向



—— 7 割弱の市民は今後も郡山市内に住み続けたいとしています ——

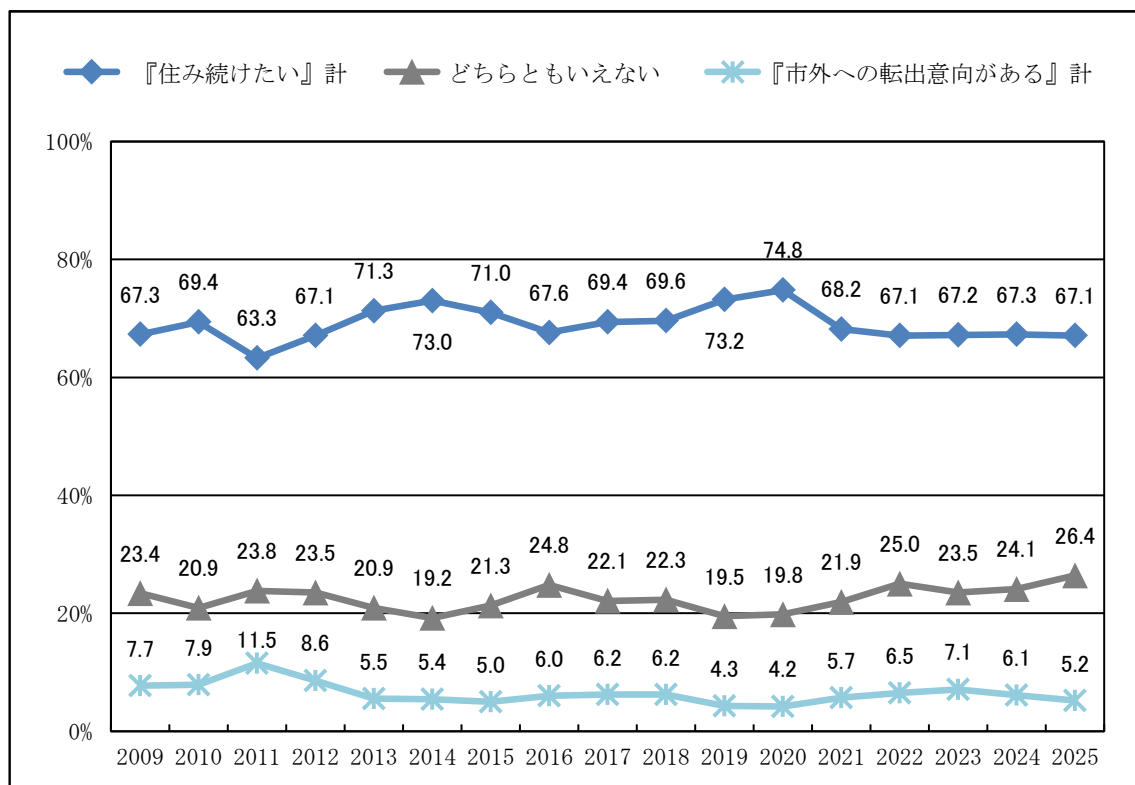
【全体結果】

今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」(56.5%)と「市内の別の地域に住みたい」(10.6%)の両者を合計すると『住み続けたい』(67.1%)となっています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(3.5%)と「住みたくない」(1.7%)を合計すると『市外への転出意向がある』(5.2%)となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』の合計は低下したものの、2013年度以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』の合計は2020年度から上昇傾向でしたが、2023年度をピークに減少が続いています(図2-3参照)。

図 2-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 2-4 参照）

①性別

『住み続けたい』の割合は、性別による大きな差はみられません。

②年代別

『住み続けたい』の割合は、70代以上（78.2%）で最も高く、次いで60代（70.6%）が続き、高齢層で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』の割合は、20代（10.8%）、次いで40代（9.4%）の順に高くなっています。

図2-4 今後の居留意向（地域別／性別／年齢別）

